

本市の文化振興と施設の管理運営について

1. 北九州市文化振興計画について

(1) 計画の位置付け

北九州市文化振興計画（以下「文化振興計画」）は、基本構想・基本計画である「元気発進！北九州」プランの部門別計画として位置づけており、本市の文化芸術の振興に関する基本的な方向性を示すもの。

(2) 計画期間

平成22（2010）年度～令和4（2022）年度

(3) 基本理念

『市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち』

(4) 計画の体系

基本理念の実現に向け、7つの主要施策に基づき、様々な取組みを実施。

- | | |
|------------------------|----|
| 【施策1】 市民の文化芸術活動の促進 | |
| ➢ 市民が行う文化芸術活動への支援・協働 | |
| ➢ 文化施設の充実及び活用 | など |
| 【施策2】 市民が文化芸術に接する機会の拡大 | |
| ➢ 文化芸術を提供する事業の実施・支援 | |
| ➢ 広報のあり方、リピーターやファン等の獲得 | など |
| 【施策3】 発信力の高い文化芸術の振興 | |
| ➢ 劇場文化の創造 | |
| ➢ 漫画や「映画の街」の施策の実施・支援 | など |
| 【施策4】 文化芸術の担い手の育成 | |
| ➢ 人材育成に係る事業の実施 | |
| ➢ 文化芸術の専門家を目指す人材の育成 | など |
| 【施策5】 地域における伝統文化の発掘・継承 | |
| ➢ 伝統文化の保存・継承 | |
| ➢ 伝統文化の公開 | など |
| 【施策6】 近代化遺産など文化財の保存・継承 | |
| ➢ ユネスコ世界文化遺産 | |
| ➢ 文化財の保護、適切な管理 | など |
| 【施策7】 文化芸術によるまちづくり | |
| ➢ まちのにぎわいづくり | |
| ➢ 創造都市への取組み | など |

2. 本市における先進的な取り組みについて

(1) 北九州メディア芸術創造拠点推進事業

本市に蓄積されたメディア芸術の資源を活かし、芸・産・学・官連携のもと、文化芸術の振興を図り、国内外へ都市イメージを発信している。

《主な取り組み》

① 北九州市漫画ミュージアム

本市にゆかりのある作家・作品を中心に、その魅力を伝える施設。『訪れてみたい日本のアニメ聖地 88 (2018～2022 年版)』に選定され、幅広い注目を集めており、令和3年度は43,263人の方が訪れている。



② 北九州アニメソングピアノライブ

主に YouTube で活躍中のピアニストによる、アニメソングのピアノコンサートを開催し、令和3年度は国内外の1,937人が会場やオンラインで参加した。



③ アジア MANGA サミット北九州

日本・中国・韓国・香港・台湾を中心に、約8か国・地域の漫画家や関係者による国際交流イベントを本市で開催し、漫画家約200名による「マンガ・アーカイブ」をテーマとした会議や300点以上が集まった作品展等を実施した。



④ 北九州国際漫画大賞

東アジアを中心に海外にも広く作品を募り、国際色豊かな4コマ漫画の国際コンテストを実施し、令和3年度は世界22か国・地域から、1,271作品が集まるなど、北九州から漫画の魅力国内外に広く発信している。



(2) 北九州フィルム・コミッション

国内外の映画やテレビドラマ等のロケ誘致・撮影支援を実施。作品のPRイベント等を通じ、「映画の街」という都市ブランドを発信している。

これまでに映画・テレビドラマなど、631本の撮影を支援（令和4年3月末時点）し、「東京ドラマアワード2014・特別賞」や「第23回福岡県文化賞（社会部門）」、「平成28年度ふるさとづくり大賞・団体表彰」などを受賞した。

映画『旅猫リポート』



劇中に登場する小倉城で記念イベント

連続短編ドラマ『映画の街・北九州』



映画館での映画鑑賞の良さを伝える連続ドラマ

(3) 東アジア文化都市北九州 2020▶21

日中韓3か国において、各国で選定された都市が多彩な文化芸術イベントや文化交流を実施するものであり、2020年、2021年と2年間にわたって、多様な214の事業を実施し、延べ164万人の方が参加した。

文化芸術を活用したまちづくりのきっかけとなるとともに、パブリシティ効果は19億7,300万円となり、経済波及効果の推計は16億200万円に上るなど、大きな成果を得ることができた。



淀川テクニック氏による作品「北九州のフクロオオカミ」



3. 漫画ミュージアムの管理運営について

	北九州市漫画ミュージアム	京都国際マンガミュージアム
経緯目的	<ul style="list-style-type: none"> ●本市ゆかりの漫画家やその作品を資源として、文化振興へ繋げていくため、市主導で設置。 ●漫画文化の普及・振興。まちのにぎわい創出を目的とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●京都精華大学から京都市に、マンガミュージアム構想の提案があり、地元関係者の協力を受け設置。 ●漫画文化を海外に発信することを目的とする。
実施主体	本市直営	京都市、京都精華大学の共同事業
	・小倉駅新幹線口の商業施設「あるある city」5・6Fに入居。	・閉鎖となった小学校を活用。 ・土地・建物は市が所有し、大学へ無償貸与。運営は大学が実施。
開館日	H24年8月	H18年11月
機能	原画保存・調査研究 展示機能・体験機能 漫画閲覧（7万冊）	原画保存・調査研究 展示機能・体験機能 漫画閲覧（5万冊）
利用料金	大人 480円 中高生 240円 小学生 120円	大人 900円 中高生 400円 小学生 200円
	年間パスポート 大人 2,400円	年間パスポート 大人 6,000円
来館規模	8万人程度／年	30万人程度／年
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・買取大型企画展から郷土作家を顕彰する独自の企画展まで、年4回の企画展を通して、幅広い層にアプローチ。 ・月4回、漫画教室を開催。次世代を担う人材育成にも力を入れている。 ・ゆかり作家の原画等を収集・保存、調査・研究を経て、展示へ繋げることで、郷土文化の発信にも努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本初のマンガに関する総合博物館。 ・京都精華大学が、漫画ミュージアム構想を市に提案。閉校となった元・龍池小学校^{なついけ}を有する地域が連携し実現。 ・館内には総延長約200メートルの書棚「マンガの壁」を設置。人工芝で整備された広大なグラウンドで読書できる。 ・大学が運営と研究部門を担い、アカデミックな部分で他の類似施設を牽引。